

C 型肝炎に対する清暑益気湯の抑制

○田口眞寿美¹⁾、大野 修嗣²⁾、鈴木めぐみ³⁾、趙 重文¹⁾、平井 浩一¹⁾、
丁 宗鐵³⁾

東京大学大学院・医学系研究科・生体防御機能学¹⁾、大野クリニック²⁾、
順天堂大学・医学部・医史学³⁾

〔目的〕

我々は人參養榮湯がC型肝炎患者の血清中のC型肝炎ウイルス(HCV)価を減少することを明らかにした。さらに in vitro にて人參養榮湯の構成生薬である五味子と陳皮がMOLT-4細胞(ヒトリンパ球系株化細胞)へのHCVの吸着を抑制することを報告してきた。今回は人參養榮湯と同様に五味子と陳皮が配合された清暑益気湯のエキス製剤を用いてその抗ウイルス活性について検討した。

〔方法〕

漢方薬を服用していないC型慢性肝炎患者6人を対象とし、清暑益気湯エキス剤(ツムラ)服用前と服用4週間後の血清を用いて評価した。患者の年齢は46歳～80歳、女性5名男性1名で平均66.5歳であった。それぞれの血清で一般的な生化学的検査と、RT-PCR法により血清HCV量を測定した。吸着活性試験はMOLT-4細胞(ヒトリンパ球系株化細胞)(5×10^5 個)を37℃、5%CO₂下で48時間培養し、患者のHCV血清を加えてさらに4時間培養した後ウイルス量をRT-PCR法にて測定した。

〔結果及び考察〕

清暑益気湯服用後に血清HCV量が増加したもの1例、減少したもの2例、変化が見られなかったもの3例であった。またMOLT-4細胞吸着活性試験では服用後に増加したもの3例、減少したもの2例、変化が見られなかったもの1例であった。結果として1ヶ月という短期間ではあったが、清暑益気湯で投与例の半数で血清HCV量、細胞吸着活性のいずれかが低下していた。以上より、清暑益気湯エキス剤にもC型肝炎ウイルス感染系に対するウイルス低下効果があると思われた。今回対象としたのは肝硬変に移項した症例を含むC型慢性肝炎患者であった。インターフェロンの適応になることのできない症例でも清暑益気湯により一定の抗ウイルス作用がみられた症例があったことは、本疾患への漢方治療の可能性を示すものと考えられる。